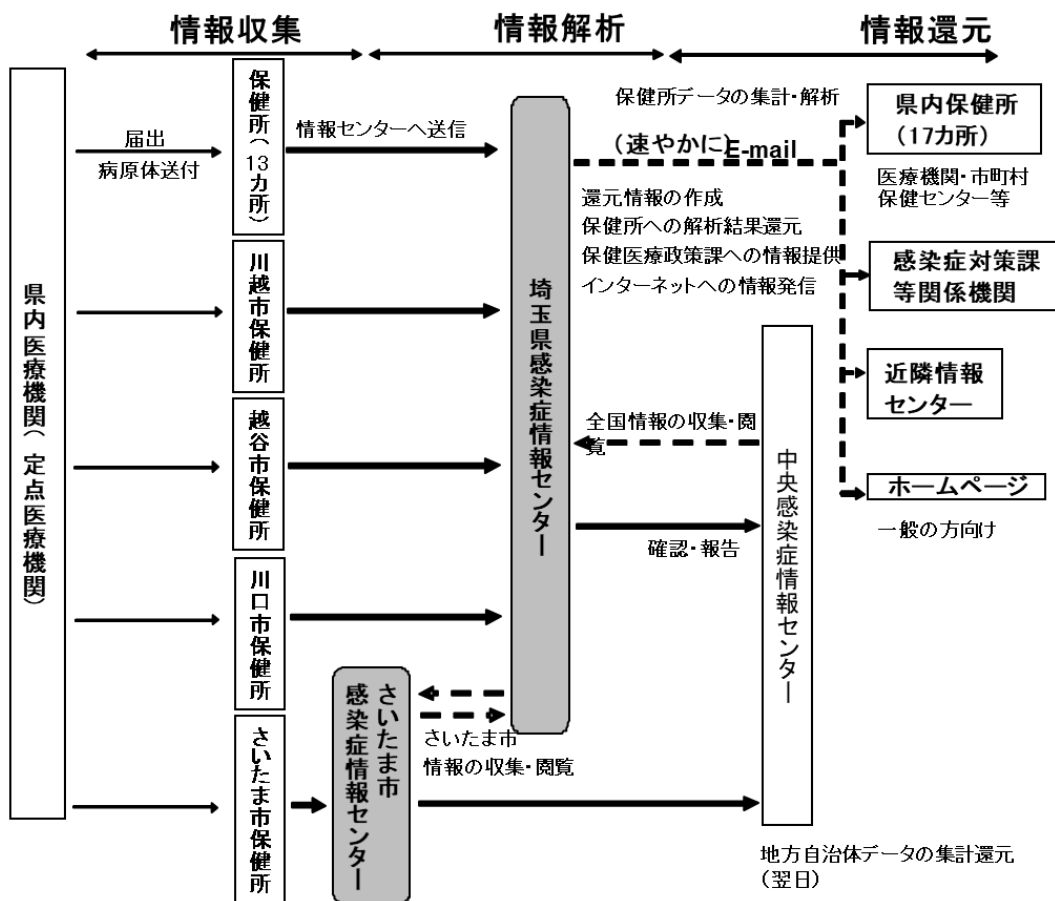


III 事業報告

ここでは、感染症情報センターが行った事業について紹介する。感染症発生動向調査のように通常年単位で報告する事業は、年単位の集計結果を記載した。

1 感染症発生動向調査

埼玉県では、感染症法に基づき、感染症に関する情報の収集及び公表を目的とした感染症サーベイランスを感染症発生動向調査事業として実施している。本事業は、その実施要綱に基づき、地方自治体及び医師等医療関係者の協力と国との連携により事業体制が構築されている。当センターは、県内に設置されている政令指定都市及び保健所設置市の協力のもと、基幹情報センターとして県内の感染症情報の収集及び公表を行っている(図Ⅲ-1-1)。



図Ⅲ-1-1 感染症発生動向調査による情報(患者・病原体)の流れ

令和 4 年の感染症発生動向調査では、感染症法第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正により、新型コロナウイルス感染症では、抗原定性検査における唾液検体の追加（3 月 17 日）と患者に関する届出項目の追加と削除（6 月 30 日）があった。サル痘（令和 5 年 5 月 26 日、エムボックスに名称変更）では届出基準における検査方法及び検査材料が改正された（8 月 10 日）。また、新型コロナウイルス感染症については、保健医療体制の強化・重点化のため、全数届出の見直しが行われ、届出対象を①65 歳以上の者、②入院を要する者、③重症化リスクがあり、新型コロナウイルス感染症治療薬の投与又は新たに酸素投与が必要と医師が判断する者、④妊婦の 4 類型に限定された。また、感染動向は医療機関による診断総数の日時報告として把握されることとなった（厚生労働省事務連絡「with コロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直しについて」令和 4 年 9 月 12 日）。

本資料では、全数把握疾患は診断日が令和 4 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は令和 4 年第 1 週(令和 4 年 1 月 3 日～令和 4 年 1 月 9 日)から第 52 週(令和 4 年 12 月 26 日～令和 5 年 1 月 1 日)まで、月単位報告疾患は 2022 年 1 月から 12 月までの報告を集計し、県内の動向をまとめた。新型コロナウイルス感染症を除く疾患は従来と同じく NESID（感染症サーベイランスシステム）から情報を収集し、新型コロナウイルス感染症は埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を用いた。なお、新型コロナウイルス感染症については令和 5 年 3 月時点での暫定値として、概要をまとめた。また、全数把握疾患の病原体については、令和 4 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。また、新型コロナウイルス感染症は県感染症対策課で収集した情報を用いた。なお、新型コロナウイルス感染症については令和 5 年 3 月時点での暫定値として、概要をまとめた。

(1) 患者情報

a. 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、一類から四類感染症、新型インフルエンザ等感染

症及び指定感染症は診断後直ちに、五類感染症(侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに届出)は7日以内に診断した医師から届出られる疾患である。

(a) 一類・二類感染症

一類感染症は、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者が届出の対象となるが、令和4年は疑似症を含め届出はなかった(表Ⅲ-1-1)。

二類感染症は、結核757人の届出があり、その他の二類感染症の届出はなかった(表Ⅲ-1-1)。

表Ⅲ-1-1 一類・二類・三類感染症 届出数

	疾患名	埼玉県		
		令和4年	令和3年	令和2年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	757	834	891
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	6
	腸管出血性大腸菌感染症	144	136	95
	腸チフス	1	2	1
	パラチフス	0	0	0

結核は、男性447人、女性310人の計757人の届出があり、前年の834人と比べ減少した。類型別では患者516人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)240人、疑似症患者1人の届出があり、患者は前年の592人より減少した。

男性では患者が319人、無症状病原体保有者が128人で、60歳以上が65.8%を占め、80歳代、70歳代の順に多かった。女性では患者が197人、無症状病原体保有者が112人、疑似症患者1人で、60歳以上が61.3%を占め、80歳代、70歳代の順に多かった(表Ⅲ-1-2)。

表Ⅲ-1-2 結核 年齢階級別届出数(令和4年)

年齢階級	男性				女性				総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	
10歳未満	-	12	-	12	1	8	-	9	21
10歳代	5	2	-	7	-	6	-	6	13
20歳代	15	12	-	27	10	7	-	17	44
30歳代	16	8	-	24	14	8	-	22	46
40歳代	22	11	-	33	14	21	-	35	68
50歳代	33	17	-	50	14	17	-	31	81
60歳代	37	13	-	50	14	7	-	21	71
70歳代	81	26	-	107	41	24	-	65	172
80歳代	89	24	-	113	61	11	1	73	186
90歳以上	21	3	-	24	28	3	-	31	55
合計	319	128	0	447	197	112	1	310	757
割合	42.1%	16.9%	0.0%	59.0%	26.0%	14.8%	0.1%	41.0%	100.0%

(-0)

(b) 三類感染症

三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 144 人、腸チフス 1 人の計 145 人の届出があった(表Ⅲ-1-1)。

腸管出血性大腸菌感染症は、男性 57 人、女性 87 人の計 144 人の届出があり、前年の 136 人よりやや増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布した。年齢階級別では、20 歳代が 30 人と最も多く、次いで 30 歳代が 28 人であった。類型別では、患者 98 人、無症状病原体保有者 46 人で、患者は昨年に引き続き増加した。O 血清型は、O157 が 90 人と最も多く、次いで O26 が 21 人であった。年齢階級別では、O157 の検出が多かったのは 20 歳代及び 30 歳代、O26 の検出が多かったのは 30 歳代及び 40 歳代であった(表Ⅲ-1-3)。届出は 7 月が最も多く、例年の流行期である 6 月～9 月の届出数は 91 人で、前年の 58 人から大きく増加した。

患者における O 血清型別の割合は、O157 が 72.4% (71 人)、O26 が 15.3% (15 人) で、前年に比べ O157 は増加し、O26 は減少した。その他の血清型は O103、O111 及び O121 が各 2 人、O71、O76、O145 及び O165 が各 1 人、その他に OUT が 1 人、不明が 1 人であった。なお、無症状病原体保有者では、O157 が 19 人、O26 が 6 人、O8、O84、O91、O103、O112ab 及び O156 が各 2 人、O48、O65、O66、O78、O88、O115、O128、O146 及び O174 が各 1 人であった。

溶血性尿毒症症候群 (HUS) 患者は、70 歳代の女性 2 人の発症が確認された。検出された大腸菌の O 血清型は共に O157 であった。

表Ⅲ-1-3 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数(令和4年)

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	17	9	8	12	5	10	3	4
10歳代	21	8	13	14	7	15	3	3
20歳代	30	11	19	22	8	18	2	10
30歳代	28	14	14	15	13	18	4	6
40歳代	15	5	10	9	6	8	5	2
50歳代	11	2	9	8	3	5	3	3
60歳代	12	6	6	11	1	8	1	3
70歳代	7	1	6	5	2	6	-	1
80歳代	2	-	2	1	1	1	-	1
90歳以上	1	1	-	1	-	1	-	-
合計	144	57	87	98	46	90	21	33
割合	100.0%	39.6%	60.4%	68.1%	31.9%	62.5%	14.6%	22.9%

(-:0)

腸チフスは、10月に女性20歳代1人の届出があり、前年の2人を下回った。類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はミャンマーであった。

(c) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎35人、A型肝炎3人、オウム病1人、デング熱2人、マラリア2人、レジオネラ症96人の計139人の届出があった(表Ⅲ-1-4)。

E型肝炎は、男性26人、女性9人の計35人の届出があり、前年の36人を下回った。症例の年齢は30歳代から90歳代に分布し、50歳代が9人で最も多く、次いで60歳代が7人であった。類型は患者が32人、無症状病原体保有者が3人で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出が5人、PCR法による病原体遺伝子の検出のみが2人、血清IgA抗体の検出のみが27人、血清IgM抗体の検出のみが1人であった。推定感染経路は経口感染21人、不明14人で、推定感染地域は国内31人、不明4人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の3人は献血により探知された症例であった。

A型肝炎は、男性3人の届出があり、前年の2人を上回った。類型は全て患者で、症例の年齢は30歳代、70歳代及び90歳以上が各1人であった。診断方法は血清IgM抗体の検出のみが2人、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が1人であった。推定感染経路は、性的接触が1人、経口感染が1人、不明1人で、推定感染地域は国内が2人、不明が1人であった。また、ワクチン接種歴は、

全て不明であった。

オウム病は、過去 10 年で 3 人（平成 27、平成 30 年、令和 2 年）の届出があり、令和 4 年は 8 月に男性 70 歳代 1 人の届出があった。類型は患者で、診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出であった。推定感染経路は鳥類との接触で、推定感染地域は国内（県内）であった。

表Ⅲ-1-4 四類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和4年	令和3年	令和2年		令和4年	令和3年	令和2年
E型肝炎	35	36	28	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	3	2	4	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノкокクス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	0	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	1	0	1	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサヌル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	0	0
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ボツリヌス症	0	0	0
ジカウイルス感染症	0	0	1	マラリア	2	2	0
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	0
チクングニア熱	0	0	0	レジオネラ症	96	99	107
つつが虫病	0	3	2	レプトスピラ症	0	1	0
デング熱	2	0	2	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

前年発生のなかったデング熱は、8月に男性 30 歳代 1 人、10月に女性 30 歳代 1 人の計 2 人の届出があった。病型は共にデング熱で、診断方法は前者が PCR 法による病原体遺伝子の検出、後者が非構造蛋白抗原（NS1）の検出であった。推定感染地域は前者がベトナム、後者がネパールであった。

マラリアは、1月及び8月に女性 30 歳代の計 2 人の届出があり、前年の 2 人と同数であった。病型は前者が熱帯熱で、後者が三日熱であった。診断方法は、前者が血液検体の鏡検による病原体の検出で、後者は血液検体の鏡検による病原体の検出及び血液検体の PCR 法による病原体遺伝子の検出であった。推定感染地域は前者がナイジェリア、後者がインドであった。

レジオネラ症は、男性 78 人、女性 18 人の計 96 人の届出があり、前年

の 99 人を下回った。症例の年齢は 20 歳代から 90 歳代に分布し、60 歳代が 23 人、70 歳代が 22 人、50 歳代が 21 人で多かった。類型は患者 95 人、無症状病原体保有者 1 人で、患者の病型別では肺炎型 93 人、ポンティアック熱型 2 人であった。年間を通して届出はあったが、5 月と 9 月にそれぞれ 20 人、16 人と届出が多かった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が 95 人、PCR 法または LAMP 法による病原遺伝子の検出が 8 人、分離・同定による病原体の検出が 8 人であった（重複例有り）。推定感染地域は、国内 84 人、国外 1 人、不明 11 人で、国内感染例のうち県内は 55 人であった。

(d) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢 24 人、ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)6 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 72 人、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）1 人、急性脳炎 35 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 7 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 41 人、後天性免疫不全症候群 27 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 4 人、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 47 人、水痘（入院例）10 人、梅毒 469 人、播種性クリプトコックス症 10 人、破傷風 3 人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 人、百日咳 13 人、風しん 2 人、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 人の計 774 人の届出があった(表 III-1-5)。

表 III-1-5 五類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和4年	令和3年	令和2年		令和4年	令和3年	令和2年
アメーバ赤痢	24	19	31	侵襲性肺炎球菌感染症	47	57	63
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	10	6	水痘(入院例)	10	15	13
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	72	95	81	先天性風しん症候群	0	0	0
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	1	1	2	梅毒	469	287	168
急性脳炎	35	20	23	播種性クリプトコックス症	10	10	10
クリプトスポリジウム症	0	0	0	破傷風	3	3	5
クロイツフェルト・ヤコブ病	7	4	2	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	41	30	30	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	0	1
後天性免疫不全症候群	27	28	29	百日咳	13	43	106
ジアルジア症	0	4	0	風しん	2	1	3
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	6	12	麻しん	0	1	0
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	2	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	0	0

アメーバ赤痢は、男性 24 人の届出があり、前年の 19 人を上回った。症例の年齢は 50 歳代及び 60 歳代が各 6 人、40 歳代及び 70 歳代が各 5 人、30 歳代が 2 人であった。病型は全て腸管アメーバ症で、診断方法は全て鏡検による病原体の検出であった。推定感染経路は経口感染が 5 人、

性的接触が 7 人、不明 12 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触が 4 人、同性間性的接触が 3 人であった。推定感染地域は、国内 15 人、国外 1 人、不明 8 人であった。

ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)は、B 型肝炎 4 人、その他のウイルス性肝炎 2 人の計 6 人の届出があり、前年の 10 人を下回った。B 型肝炎は 20 歳代から 40 歳代の男性 4 人の届出があった。いずれも、診断方法は血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。ウイルスの遺伝子型は C 型が 2 人、不明が 2 人であった。推定感染経路は全て性的接触で、性的接触の内訳は異性間性的接触が 1 人、同性間性的接触が 2 人、異性同性不明が 1 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。C 型肝炎の届出はなかった。その他のウイルス性肝炎は、サイトメガロウイルス(CMV)による肝炎が 8 月に女性 30 歳代 1 人、エプスタイン・バー・ウイルス(EBV)による肝炎が 11 月に女性 20 歳代 1 人の計 2 人の届出があった。推定感染経路はいずれも不明で、推定感染地域は、前者は不明、後者は国内であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 41 人、女性 31 人の計 72 人の届出があり、前年の 95 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 57 人で全体の 79.2%を占めた。症状は尿路感染症が 28 人、菌血症・敗血症が 25 人、胆嚢炎・胆管炎が 12 人、腸炎・腹膜炎が 9 人、肺炎が 5 人(重複例有り)であった。検査検体で多かったのは、尿の 24 検体、血液の 23 検体(重複例有り)であった。分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 27 株、*Enterobacter cloacae* が 22 株、*Serratia marcescens* が 7 株、*K. pneumoniae* が 6 株、*Citrobacter freundii* が 4 株、*Escherichia coli* が 2 株、*E. asburiae*、*Proteus mirabilis* が各 1 株で、*E. cloacae* 及び *K. aerogenes* の同時検出が 1 件、この他に *Enterobacter sp.* が 1 株報告された。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、10 月に女性 10-14 歳 1 人の届出があり、前年と同数であった。病原体は不明で、ポリオワクチン接種歴は有りであった。推定感染経路は不明、推定感染地域は国内(県内)であった。

急性脳炎は、男性 17 人、女性 18 人の計 35 人の届出があり、前年の 20 人より増加した。症例の年齢は 0 歳から 60 歳代に分布し、階級別では 1-4 歳の 20 人が最も多かった。病原体別では、新型コロナウイルスによるものが 8 人で、0 歳が 1 人、1-4 歳が 5 人、5-9 歳が 2 人であった。その他には、RS ウイルスが 2 人、ヘルペスウイルス、ムンプスウイルス及び

リステリア属菌が各 1 人で、病原体が特定されなかったのは 22 人であった。推定感染地域は、全て国内で、県内は 30 人であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)は、男性 6 人、女性 1 人の計 7 人の届出があり、前年の 4 人より増加した。症例の年齢は 60 歳代 3 人、70 歳代 1 人、80 歳代 2 人、90 歳代 1 人で、病型は全て古典型 C J D で、診断の確実度は、ほぼ確実が 6 人、疑いが 1 人であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性 22 人、女性 19 人の計 41 人の届出があり、前年の 30 人より増加した。症例の年齢は 40 歳代から 100 歳代に分布し、60 歳以上が 35 人で全体の 85.4%を占めた。届出は 9 月を除く各月にあり、8 月及び 11 月の 7 人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 13 人、B 群が 8 人、C 群が 1 人、G 群が 17 人、不明が 2 人であった。推定される感染経路は創傷感染が 11 人、飛沫・飛沫核感染及び接触感染が各 1 人、その他が 5 人、不明が 23 人で、推定感染地域は国内が 37 人（県内 33 人）、不明が 4 人であった。

後天性免疫不全症候群は、男性 24 人、女性 3 人の計 27 人の届出があり、前年の 28 人を下回った。病型別では、A I D S は 17 人で、前年の 12 人より増加し、無症状病原体保有者は 8 人で、前年の 15 人より減少した。男性の症例は 20 歳代から 60 歳代に分布し、30 歳代及び 40 歳代が各 7 人、20 歳代が 6 人で多かった。病型は A I D S が 14 人で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が 8 人、カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）が 3 人、クリプトコッカス症（肺以外）が 2 人、トキソプラズマ脳症（生後 1 か月以後）、サイトメガロウイルス感染症（生後 1 カ月以後で、肺、脾、リンパ節以外）及び H I V 脳症（認知症又は亜急性脳炎）が各 1 人（重複例有り）であった。また、その他（指標疾患を認めない患者）が 2 人、無症状病原体保有者が 8 人であった。推定される感染経路では性的接触が 17 人、不明が 7 人で、性的接触の内訳は同性間性的接触が 12 人、異性間性的接触が 3 人、異性・同性不明性的接触が 2 人であった。女性の症例は、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人であった。病型はいずれも A I D S で、その指標疾患はカンジダ症（食道、気管、気管支、肺）、ニューモシスティス肺炎及び活動性結核（肺結核又は肺外結核）が各 1 人であった。推定感染経路は異性間性的接触が 2 人、不明が 1 人であった。また、病型別の年齢分布では、A I D S は 20 歳代から 60 歳代に分布し、20 歳代が 5 人で最も多かった。無症状病原体保有者は 20 歳代から 50 歳代に分布し、30 歳代及び 40 歳代が各 3 人で多く、75.0%を占めた(表Ⅲ-1-6)。

表Ⅲ-1-6 後天性免疫不全症候群性別内訳(令和4年)

		男性 n=24		女性 n=3		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	-	0.0%	
	10歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	20歳代	6	25.0%	-	0.0%	
	30歳代	7	29.2%	-	0.0%	
	40歳代	7	29.2%	-	0.0%	
	50歳代	2	8.3%	2	66.7%	
	60歳代	2	8.3%	1	33.3%	
	70歳代	-	0.0%	-	0.0%	
病型	80歳以上	-	0.0%	-	0.0%	
	AIDS	14	58.3%	3	100.0%	
	その他	2	8.3%	-	0.0%	
推定感染地域	無症状病原体保有者	8	33.3%	-	0.0%	
	日本国内	16	66.7%	-	0.0%	
	その他(国外)	2	8.3%	-	0.0%	
国籍	不明	6	25.0%	3	100.0%	
	日本	18	75.0%	-	0.0%	
	その他	3	12.5%	3	100.0%	
推定感染経路	性行為感染	不明	3	12.5%	2	66.7%
		異性間性的接触	12	50.0%	-	0.0%
		同性間性的接触	-	0.0%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	2	8.3%	-	0.0%
	不明	7	29.2%	1	33.3%	

(届出数-:0)

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男性3人、女性1人の計4人の届出があり、前年の6人より減少した。症例の年齢は80歳代が2人、0歳及び90歳以上が各1人であった。診断方法は、全て分離・同定による病原体の検出で、検体は血液が3人、髄液及び血液が1人であった。ヒブワクチン接種歴は、0歳の症例は有りで、その他は不明であった。推定感染経路は誤嚥によるものが1人で、不明が3人であった。推定感染地域は国内3人(県内2人)、不明が1人であった。

前年発生の中なかった侵襲性髄膜炎菌感染症は、12月に男性40歳代1人の届出があった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出で、血清型はY群であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内であった。ワクチン接種歴は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症は、男性30人、女性17人の計47人の届出があり、前年の57人より減少した。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、60歳以上が34人で全体の72.3%を占めた。20歳未満では1-4歳が5人、0歳が4人の報告があった。診断方法は、分離同定による病原体の検出が45人、PCR法による病原体遺伝子の検出が2人、免疫クロマト法によ

る病原体抗原の検出、ラテックス法による病原体抗原の検出が各 1 人（重複例有り）であった。症状は発熱が 41 人（87.2%）、菌血症が 40 人（85.1%）、肺炎が 19 人（40.4%）に認められた。ワクチン接種歴は、20 歳未満では、いずれも有りで、20 歳以上では、有りが 5 人、無しが 9 人、不明が 24 人であった。推定感染地域は国内が 43 人（県内 41 人）、不明が 4 人であった。

水痘（入院例）は、男性 6 人、女性 4 人の計 10 人の届出があり、前年の 15 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布した。病型別では検査診断例が 9 例、臨床診断例が 1 例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出が 4 人、分離・同定による病原体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出が各 3 人、蛍光抗体法による抗原の検出が 1 人（重複例有り）であった。ワクチン接種歴は有りが 4 人、無しが 2 人、不明が 4 人であった。感染経路は、家族等からの感染が 3 人、水痘ワクチン接種に伴う副反応疑いが 1 人、不明が 6 人で、推定感染地域はいずれも国内（県内）であった。

梅毒は、男性 350 人、女性 119 人の計 469 人の届出があり、前年の 287 人より大きく増加し、届出数は感染症法に基づく調査が開始された 1999 年以来、最大となった。性比（男/女）は 2.94 で、前年の 3.22 より低くなった。症例の年齢は、男性では 10 歳代から 80 歳代に分布し、40 歳代の 101 人、30 歳代の 97 人が多く、56.6%を占めた。女性では 0 歳から 100 歳代に分布し、20 歳代が 63 人で最も多く 52.9%を占めた。前年に比べ、男性では 30 歳代～60 歳代の各年代が増加し、女性では 20 歳代が大きく増加した。病型は、男性では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が 210 人、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が 79 人、晩期顕症梅毒が 4 人、無症状病原体保有者が 57 人で、女性では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が 26 人、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が 56 人、晩期顕症梅毒が 2 人、先天梅毒が 2 人、無症状病原体保有者が 33 人であった。なお、先天梅毒の 2 人は、前年と同数であった。推定感染経路は、男性では性行為感染が 307 人、不明が 43 人、女性では性行為感染が 99 人、母子感染が 2 人、不明が 18 人であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男性が 243 人、女性が 88 人であった。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の 44.9%、従事歴が女性の 31.1%に認められ、女性の性風俗産業の従事歴の割合は前年の 11.8%から大きく増加した。H I V 感染症との合併は男性 13 人、妊娠は女性 9 人に認められた。また、推定感染地域は国内が 368 人、不明が 101 人であった（表Ⅲ-1-7）。

表Ⅲ-1-7 梅毒性別内訳(令和4年)

		男性 n=350		女性 n=119		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	2	1.7%	
	10歳代	2	0.6%	10	8.4%	
	20歳代	63	18.0%	63	52.9%	
	30歳代	97	27.7%	17	14.3%	
	40歳代	101	28.9%	13	10.9%	
	50歳代	59	16.9%	5	4.2%	
	60歳代	19	5.4%	1	0.8%	
	70歳代	6	1.7%	2	1.7%	
	80歳代	3	0.9%	3	2.5%	
	90歳以上	-	0.0%	3	2.5%	
病型	早期顕症梅毒(I期)	210	60.0%	26	21.8%	
	早期顕症梅毒(II期)	79	22.6%	56	47.1%	
	晚期顕症梅毒	4	1.1%	2	1.7%	
	先天梅毒	-	0.0%	2	1.7%	
	無症状病原体保有者	57	16.3%	33	27.7%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	243	69.4%	88	73.9%
		同性間性的接触	26	7.4%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	-	0.0%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	38	10.9%	11	9.2%
	性行為以外	母子感染	-	0.0%	2	1.7%
		不明	43	12.3%	18	15.1%

(届出数-:0)

播種性クリプトコックス症は、男性6人、女性4人の計10人の届出があり、前年の10人と同数であった。症例の年齢は30歳代から80歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が9人、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出及び病理組織学的診断が2人であった(重複例有り)。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が6人、頭部外傷を起因とする髄液の耳漏によるものが1人、不明が3人であった。推定感染地域はいずれも国内で、県内は9人であった。

破傷風は、男性2人、女性1人の計3人の届出があり、前年の3人と同数であった。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定であった。推定感染経路は創傷感染が2人、不明が1人、推定感染地域はいずれも国内(県内)であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有り、無し及び不明が各1人であった。

前年発生の中なかったバンコマイシン耐性腸球菌感染症は、10月に女性70歳代1人の届出があった。尿から *Enterococcus faecalis* が分離され、MIC (Minimum inhibitory concentration) の測定によりバンコマイシンへの耐性が確認された。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内(県

内)であった。

百日咳は、男性 7 人、女性 6 人の計 13 人の届出があり、前年の 43 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 50 歳代に分布し、5-9 歳が 3 人で最も多かった。診断方法は単一血清で抗体価の高値が 8 人、病原体遺伝子の検出が 3 人、イムノクロマト法による病原体抗原の検出及び分離・同定による病原体の検出が各 1 人であった。ワクチン接種歴は有りが 6 人、不明が 7 人であった。接種歴有り 6 人のうち 5 人が 4 回接種で、残り 1 人は 0 歳の症例で、2 回目までは有りで、3 回目以降は不明であった。推定感染地域は国内(県内)が 10 人、不明が 3 人であった。

風しんは、5 月に女性 30 歳代 1 人、6 月に男性 50 歳代 1 人の計 2 人の届出があり、前年の 1 人を上回った。共に病型は検査診断例、診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、前者は 1 回で、後者はなかった。推定感染経路は共に不明で、推定感染地域は前者が国内(都道府県不明)、後者は国内(県内)であった。

平成 31 年以来、届出がなかった薬剤耐性アシネトバクター感染症は、6 月に男性 90 歳代 1 人の届出があった。尿から *Acinetobacter baumannii* が分離され、特定薬剤への耐性が確認された。90 日以内の海外渡航歴はなかった。

(e) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行う感染症は、鳥インフルエンザ(H5N1 又は H7N9) 1 件の届出があった。

b. 定点把握対象疾患

定点把握による感染症発生動向調査は、指定届出機関(定点医療機関)からの患者情報を収集解析し、情報還元を行っている。内科、小児科、眼科及び基幹定点週報分は、月曜日から日曜日までを 1 週間の単位として、性感染症及び基幹定点月報分は月単位で集計した。

なお、令和 4 年の延べ報告定点数は、週単位報告のインフルエンザ定点が 13,025 機関、小児科定点が 8,220 機関、眼科定点が 2,062 機関、基幹定点が 572 機関、月単位報告の性感染症定点が 703 機関、基幹定点が 132 機関であった。各定点区分別報告数と定点当たり報告数を表 III-1-8 から表 III-1-12、性感染症の性年齢階級別報告数を表 III-1-13 に示す。

(a) 週単位報告の感染症(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点報告)

2021-2022 年シーズンにインフルエンザの流行は観察されなかった。2022-2023 年シーズンは、2022 年第 51 週に定点当たり報告数が 1.22 となり、2019-2020 年シーズン以来の流行入りとなった。

R S ウイルス感染症の流行のピークは、平成 29 年以降では令和 2 年を除き、7 月から 9 月にかけて観察されている。令和 4 年は顕著な流行のピークは観察されず、6 月から 11 月まで定点当たり報告数が多い状況が続いた。咽頭結膜熱は、例年に比べ小規模な流行が夏季に観察された。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、令和 2 年 3 月以降、例年を下回る水準で推移している。感染性胃腸炎の 11 月から 12 月の冬季流行は、令和 4 年は小規模で、令和 3 年と同等であった。水痘は、令和 2 年 4 月以降、例年を下回る水準で推移している。手足口病は、平成 23 年以降、平成 25 年、平成 27 年、平成 29 年、平成 31 年・令和元年と隔年で大きな流行が観察されていたが、令和 3 年に流行は観察されなかった。令和 4 年は平成 31 年・令和元年以来の小規模な流行が観察された。伝染性紅斑は、平成 30 年・平成 31 年・令和元年と続いた流行が令和 2 年に終息し、以後非流行期が続いている。突発性発しんは、1 月から 3 月は例年同様の動向が観察されたが、4 月から 12 月までは例年よりやや少ない水準で推移した。ヘルパンギーナの夏季流行は平成 31 年・令和元年以来 3 年ぶりに観察され、流行の規模は中程度であった。流行性耳下腺炎は、年間を通して際立った報告数の増加は観察されず、平成 30 年以降非流行期が続いている。

急性出血性結膜炎は、年間を通して断続的に報告されたが、低い水準が続いている。流行性角結膜炎は、年間を通して大きな変動は観察されなかった。

細菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 0.22～1.40 の範囲であった。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 0.73 で、報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 2.00～5.70 の範囲であった。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 2.00 で、報告は例年同様に断続的であった。マイコプラズマ肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 0.91～128.11 の範囲であった。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 0.73 で、過去 10 年の最小値を下回った。クラミジア肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 0.00～6.00 の範囲であった。令和 2 年以降は患者の報告はない。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は平成 25 年第 42 週から報告対象疾患となり、平成 26 年以降の定点当たり報告患者総数は 0.09～11.40 の範囲であった。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 0.18 で、流行は観察されなかった。イン

フルエンザ（入院患者）の過去 10 年の定点当たり報告患者総数は 0.09～52.64 の範囲にあった。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 0.36 で、過去 10 年で最も少なかった令和 3 年に次いで少なかった。

(b) 月単位報告の感染症(基幹定点、性感染症定点)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 25 年から令和 2 年は 20.00 を下回っていた。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 25.36 で、前年に引き続き、定点当たり報告患者総数 20.00 を上回った。全国と比較すると少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 17 年から平成 23 年は 10.00 を超えていた。その後は低い水準で推移している。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 1.45 で、全国と同等であった。薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 1.00 以上であったが、平成 20 年から令和 3 年までは 0.09～0.89 で推移している。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 0.45 で、全国より多かった。

性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 30.00 を上回っていたが、平成 20 年から令和 3 年までは 24.12～28.72 で推移している。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 27.57 で、全国より少なかった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降、5.82～9.50 で推移している。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 8.46 で、全国と同水準であった。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降、3.84～6.28 で推移している。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 4.02 で、全国より少なかった。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降、6.47～17.44 で推移している。令和 4 年の定点当たり報告患者総数は 6.26 で過去最少となった。また、全国より少なかった。

c. 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

令和 3 年の埼玉県における「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の届出はなかった。

表Ⅲ-1-8 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位報告患者数の推移(令和4年)

週	月/日 (～週開始日～)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結核熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	01/03	3	10	31	28	941	20	20	1	33	3	6	-	11
2	01/10	1	5	40	39	1,334	14	30	-	62	16	5	-	10
3	01/17	1	9	24	36	1,624	15	40	4	54	7	6	1	9
4	01/24	-	8	14	39	1,366	15	14	1	39	4	4	-	5
5	01/31	-	7	23	32	1,086	8	10	5	36	4	3	2	7
6	02/07	-	1	5	14	794	12	4	6	44	-	3	1	2
7	02/14	4	15	9	14	748	16	7	3	45	3	5	-	5
8	02/21	-	3	6	22	702	12	5	2	34	-	3	1	6
9	02/28	-	4	7	19	674	12	2	3	49	-	4	-	6
10	03/07	1	1	8	11	722	9	3	4	46	-	9	-	6
11	03/14	1	2	7	18	609	17	4	4	57	2	11	-	3
12	03/21	4	-	7	13	504	10	1	1	28	-	5	1	4
13	03/28	3	1	4	14	463	13	2	3	44	-	7	2	5
14	04/04	-	3	3	18	540	9	7	3	37	1	3	-	2
15	04/11	-	1	5	9	597	9	10	3	38	-	6	-	4
16	04/18	1	2	5	18	625	8	15	3	62	-	6	-	8
17	04/25	-	7	12	7	559	14	6	3	76	4	4	1	6
18	05/02	1	-	10	17	445	14	8	2	40	1	6	-	5
19	05/09	-	7	12	17	777	12	9	4	60	1	6	-	9
20	05/16	-	12	18	27	979	15	33	1	76	6	7	-	4
21	05/23	1	16	28	21	1,010	20	35	2	71	1	5	1	6
22	05/30	-	20	55	30	1,054	23	35	2	53	13	6	-	14
23	06/06	-	24	45	15	1,067	16	28	2	72	14	7	-	16
24	06/13	1	56	50	26	1,163	22	53	2	77	27	3	7	7
25	06/20	-	98	60	21	1,111	22	109	6	62	21	7	1	12
26	06/27	-	93	61	36	1,039	21	209	5	60	44	8	2	11
27	07/04	-	162	65	43	998	14	326	5	67	69	9	-	13
28	07/11	1	235	61	74	921	18	571	2	52	141	12	2	11
29	07/18	1	281	19	64	714	7	749	2	42	170	3	3	12
30	07/25	1	252	23	73	577	13	954	9	49	213	8	1	12
31	08/01	4	273	16	56	493	17	1,115	1	49	214	7	1	13
32	08/08	2	182	5	67	269	5	746	5	29	158	4	-	5
33	08/15	2	126	9	49	328	6	610	1	25	87	5	-	5
34	08/22	6	205	14	55	394	7	789	2	34	134	7	-	6
35	08/29	3	218	8	59	442	8	850	2	35	168	12	-	7
36	09/05	5	280	7	43	449	11	932	1	53	168	8	1	6
37	09/12	11	292	8	46	457	9	801	5	54	138	7	-	8
38	09/19	9	218	4	52	333	6	527	-	33	77	11	2	6
39	09/26	3	215	11	57	466	11	448	1	47	69	9	1	11
40	10/03	5	141	5	50	397	9	353	-	34	42	8	-	8
41	10/10	1	152	12	51	458	12	272	1	37	31	8	-	5
42	10/17	2	139	9	31	548	17	198	1	29	33	8	-	5
43	10/24	2	147	7	43	570	18	158	2	38	19	6	-	12
44	10/31	2	135	9	49	678	24	88	2	42	5	2	1	7
45	11/07	4	137	19	57	794	36	66	-	27	3	4	-	5
46	11/14	6	101	11	62	946	25	56	1	41	7	12	-	1
47	11/21	7	85	14	57	1,069	28	37	1	47	6	8	-	5
48	11/28	16	62	15	59	1,211	20	26	-	40	4	6	3	12
49	12/05	46	60	16	54	1,466	29	27	4	33	9	10	4	4
50	12/12	122	23	12	67	1,617	16	20	-	37	4	8	4	6
51	12/19	308	31	28	44	1,670	24	7	2	37	2	8	7	4
52	12/26	477	19	13	40	877	17	8	1	29	2	9	3	1
令和4年計		1,068	4,576	969	1,963	41,675	785	11,433	126	2,395	2,145	344	53	373
令和3年計		35	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544	29	391
令和4年/令和3年比		30.5	0.5	0.6	0.6	1.3	0.7	13.6	0.9	0.7	2.2	0.6	1.8	1.0

(-0)

表Ⅲ-1-9 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位定点当たり報告数の推移(令和4年)

週	月/日 ～ 週間 始日 ～	イン フル エン ザ	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎
1	01/03	0.01	0.06	0.20	0.18	6.03	0.13	0.13	0.01	0.21	0.02	0.04	-	0.29
2	01/10	-	0.03	0.25	0.24	8.34	0.09	0.19	-	0.39	0.10	0.03	-	0.26
3	01/17	-	0.06	0.15	0.23	10.15	0.09	0.25	0.03	0.34	0.04	0.04	0.03	0.24
4	01/24	-	0.05	0.09	0.24	8.48	0.09	0.09	0.01	0.24	0.02	0.02	-	0.12
5	01/31	-	0.04	0.15	0.20	6.92	0.05	0.06	0.03	0.23	0.03	0.02	0.05	0.17
6	02/07	-	0.01	0.03	0.09	5.03	0.08	0.03	0.04	0.28	-	0.02	0.03	0.05
7	02/14	0.02	0.10	0.06	0.09	4.76	0.10	0.04	0.02	0.29	0.02	0.03	-	0.13
8	02/21	-	0.02	0.04	0.14	4.39	0.08	0.03	0.01	0.21	-	0.02	0.02	0.15
9	02/28	-	0.03	0.04	0.12	4.24	0.08	0.01	0.02	0.31	-	0.03	-	0.15
10	03/07	-	0.01	0.05	0.07	4.54	0.06	0.02	0.03	0.29	-	0.06	-	0.15
11	03/14	-	0.01	0.04	0.12	3.90	0.11	0.03	0.03	0.37	0.01	0.07	-	0.08
12	03/21	0.02	-	0.04	0.08	3.15	0.06	0.01	0.01	0.18	-	0.03	0.03	0.10
13	03/28	0.01	0.01	0.03	0.09	3.01	0.08	0.01	0.02	0.29	-	0.05	0.05	0.13
14	04/04	-	0.02	0.02	0.11	3.38	0.06	0.04	0.02	0.23	0.01	0.02	-	0.05
15	04/11	-	0.01	0.03	0.06	3.78	0.06	0.06	0.02	0.24	-	0.04	-	0.10
16	04/18	-	0.01	0.03	0.11	3.96	0.05	0.09	0.02	0.39	-	0.04	-	0.20
17	04/25	-	0.05	0.08	0.05	3.63	0.09	0.04	0.02	0.49	0.03	0.03	0.03	0.15
18	05/02	-	-	0.06	0.11	2.85	0.09	0.05	0.01	0.26	0.01	0.04	-	0.12
19	05/09	-	0.04	0.08	0.11	4.89	0.08	0.06	0.03	0.38	0.01	0.04	-	0.22
20	05/16	-	0.08	0.11	0.17	6.16	0.09	0.21	0.01	0.48	0.04	0.04	-	0.10
21	05/23	-	0.10	0.18	0.13	6.31	0.13	0.22	0.01	0.44	0.01	0.03	0.03	0.15
22	05/30	-	0.13	0.35	0.19	6.63	0.14	0.22	0.01	0.33	0.08	0.04	-	0.36
23	06/06	-	0.15	0.28	0.09	6.63	0.10	0.17	0.01	0.45	0.09	0.04	-	0.40
24	06/13	-	0.35	0.31	0.16	7.27	0.14	0.33	0.01	0.48	0.17	0.02	0.18	0.18
25	06/20	-	0.61	0.37	0.13	6.90	0.14	0.68	0.04	0.39	0.13	0.04	0.03	0.31
26	06/27	-	0.58	0.38	0.22	6.45	0.13	1.30	0.03	0.37	0.27	0.05	0.05	0.28
27	07/04	-	1.01	0.40	0.27	6.20	0.09	2.02	0.03	0.42	0.43	0.06	-	0.33
28	07/11	-	1.55	0.40	0.49	6.06	0.12	3.76	0.01	0.34	0.93	0.08	0.05	0.29
29	07/18	-	1.76	0.12	0.40	4.46	0.04	4.68	0.01	0.26	1.06	0.02	0.07	0.29
30	07/25	-	1.59	0.15	0.46	3.65	0.08	6.04	0.06	0.31	1.35	0.05	0.03	0.30
31	08/01	0.02	1.74	0.10	0.36	3.14	0.11	7.10	0.01	0.31	1.36	0.04	0.03	0.33
32	08/08	0.01	1.27	0.03	0.47	1.88	0.03	5.22	0.03	0.20	1.10	0.03	-	0.15
33	08/15	0.01	0.81	0.06	0.32	2.12	0.04	3.94	0.01	0.16	0.66	0.03	-	0.13
34	08/22	0.02	1.31	0.09	0.35	2.53	0.04	5.06	0.01	0.22	0.86	0.04	-	0.15
35	08/29	0.01	1.36	0.05	0.37	2.76	0.05	5.31	0.01	0.22	1.05	0.08	-	0.18
36	09/05	0.02	1.74	0.04	0.27	2.79	0.07	5.79	0.01	0.33	1.04	0.05	0.02	0.15
37	09/12	0.04	1.83	0.05	0.29	2.86	0.06	5.01	0.03	0.34	0.86	0.04	-	0.21
38	09/19	0.04	1.35	0.02	0.32	2.07	0.04	3.27	-	0.20	0.48	0.07	0.05	0.15
39	09/26	0.01	1.35	0.07	0.36	2.93	0.07	2.82	0.01	0.30	0.43	0.06	0.03	0.28
40	10/03	0.02	0.89	0.03	0.31	2.50	0.06	2.22	-	0.21	0.26	0.05	-	0.22
41	10/10	-	0.96	0.08	0.32	2.88	0.08	1.71	0.01	0.23	0.19	0.05	-	0.13
42	10/17	0.01	0.87	0.06	0.19	3.43	0.11	1.24	0.01	0.18	0.21	0.05	-	0.13
43	10/24	0.01	0.92	0.04	0.27	3.58	0.11	0.99	0.01	0.24	0.12	0.04	-	0.29
44	10/31	0.01	0.84	0.06	0.31	4.24	0.15	0.55	0.01	0.26	0.03	0.01	0.02	0.17
45	11/07	0.02	0.86	0.12	0.36	4.99	0.23	0.42	-	0.17	0.02	0.03	-	0.12
46	11/14	0.02	0.64	0.07	0.39	6.03	0.16	0.36	0.01	0.26	0.04	0.08	-	0.02
47	11/21	0.03	0.53	0.09	0.36	6.68	0.18	0.23	0.01	0.29	0.04	0.05	-	0.12
48	11/28	0.06	0.39	0.09	0.37	7.62	0.13	0.16	-	0.25	0.03	0.04	0.07	0.29
49	12/05	0.18	0.38	0.10	0.34	9.22	0.18	0.17	0.03	0.21	0.06	0.06	0.10	0.10
50	12/12	0.48	0.14	0.08	0.42	10.17	0.10	0.13	-	0.23	0.03	0.05	0.10	0.15
51	12/19	1.22	0.19	0.18	0.28	10.44	0.15	0.04	0.01	0.23	0.01	0.05	0.17	0.10
52	12/26	2.07	0.13	0.09	0.28	6.09	0.12	0.06	0.01	0.20	0.01	0.06	0.09	0.03
令和4年	計	4.27	28.96	6.13	12.42	263.77	4.97	72.36	0.80	15.16	13.58	2.18	1.36	9.56
令和3年	計	0.14	55.55	10.21	21.31	206.00	6.67	5.27	0.89	21.65	6.24	3.42	0.74	10.03
令和4年/令和3年比		30.6	0.5	0.6	0.6	1.3	0.7	13.7	0.9	0.7	2.2	0.6	1.8	1.0

(-0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-10 定点把握対象疾患(基幹)

週単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和4年)

週	月/日 (～週開始日～)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (～ロタウイルス)	インフルエンザ
1	01/03	1	-	-	-	-	-
2	01/10	-	-	-	-	-	-
3	01/17	-	1	-	-	-	-
4	01/24	-	-	-	-	-	-
5	01/31	-	-	-	-	-	-
6	02/07	-	-	-	-	-	-
7	02/14	-	-	-	-	-	-
8	02/21	-	-	-	-	-	-
9	02/28	-	1	-	-	-	-
10	03/07	-	1	-	-	-	-
11	03/14	-	2	-	-	-	-
12	03/21	-	-	-	-	-	-
13	03/28	-	1	-	-	-	-
14	04/04	-	1	-	-	-	-
15	04/11	-	-	-	-	-	-
16	04/18	-	1	1	-	-	-
17	04/25	-	1	-	-	-	-
18	05/02	-	2	-	-	-	-
19	05/09	-	-	-	-	-	-
20	05/16	-	1	-	-	-	-
21	05/23	-	-	-	-	-	-
22	05/30	-	-	1	-	-	-
23	06/06	-	1	-	-	-	-
24	06/13	-	-	-	-	-	-
25	06/20	-	1	-	-	1	-
26	06/27	-	-	-	-	-	-
27	07/04	1	1	1	-	-	-
28	07/11	-	1	1	-	-	-
29	07/18	1	-	1	-	-	-
30	07/25	-	-	-	-	-	-
31	08/01	-	-	-	-	-	-
32	08/08	1	-	-	-	-	-
33	08/15	-	-	-	-	-	-
34	08/22	-	1	1	-	-	-
35	08/29	-	-	-	-	1	-
36	09/05	-	-	-	-	-	-
37	09/12	-	-	-	-	-	-
38	09/19	-	-	-	-	-	-
39	09/26	-	-	-	-	-	-
40	10/03	1	3	-	-	-	-
41	10/10	-	-	-	-	-	-
42	10/17	-	-	-	-	-	-
43	10/24	1	1	-	-	-	-
44	10/31	-	-	-	-	-	-
45	11/07	-	-	-	-	-	-
46	11/14	-	-	1	-	-	-
47	11/21	-	-	1	-	-	-
48	11/28	1	-	-	-	-	-
49	12/05	-	1	-	-	-	-
50	12/12	-	-	-	-	-	1
51	12/19	-	-	-	-	-	-
52	12/26	1	-	-	-	-	3
令和4年	計	8	22	8	-	2	4
令和3年	計	11	27	10	-	3	1
令和4年/令和3年比		0.7	0.8	0.8		0.7	4.0

(-0)

週	月/日 (～週開始日～)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (～ロタウイルス)	インフルエンザ
1	01/03	0.09	-	-	-	-	-
2	01/10	-	-	-	-	-	-
3	01/17	-	0.09	-	-	-	-
4	01/24	-	-	-	-	-	-
5	01/31	-	-	-	-	-	-
6	02/07	-	-	-	-	-	-
7	02/14	-	-	-	-	-	-
8	02/21	-	-	-	-	-	-
9	02/28	-	0.09	-	-	-	-
10	03/07	-	0.09	-	-	-	-
11	03/14	-	0.18	-	-	-	-
12	03/21	-	-	-	-	-	-
13	03/28	-	0.09	-	-	-	-
14	04/04	-	0.09	-	-	-	-
15	04/11	-	-	-	-	-	-
16	04/18	-	0.09	0.09	-	-	-
17	04/25	-	0.09	-	-	-	-
18	05/02	-	0.18	-	-	-	-
19	05/09	-	-	-	-	-	-
20	05/16	-	0.09	-	-	-	-
21	05/23	-	-	-	-	-	-
22	05/30	-	-	0.09	-	-	-
23	06/06	-	0.09	-	-	-	-
24	06/13	-	-	-	-	-	-
25	06/20	-	0.09	-	-	0.09	-
26	06/27	-	-	-	-	-	-
27	07/04	0.09	0.09	0.09	-	-	-
28	07/11	-	0.09	0.09	-	-	-
29	07/18	0.09	-	0.09	-	-	-
30	07/25	-	-	-	-	-	-
31	08/01	-	-	-	-	-	-
32	08/08	0.09	-	-	-	-	-
33	08/15	-	-	-	-	-	-
34	08/22	-	0.09	0.09	-	-	-
35	08/29	-	-	-	-	0.09	-
36	09/05	-	-	-	-	-	-
37	09/12	-	-	-	-	-	-
38	09/19	-	-	-	-	-	-
39	09/26	-	-	-	-	-	-
40	10/03	0.09	0.27	-	-	-	-
41	10/10	-	-	-	-	-	-
42	10/17	-	-	-	-	-	-
43	10/24	0.09	0.09	-	-	-	-
44	10/31	-	-	-	-	-	-
45	11/07	-	-	-	-	-	-
46	11/14	-	-	0.09	-	-	-
47	11/21	-	-	0.09	-	-	-
48	11/28	0.09	-	-	-	-	-
49	12/05	-	0.09	-	-	-	-
50	12/12	-	-	-	-	-	0.09
51	12/19	-	-	-	-	-	-
52	12/26	0.09	-	-	-	-	0.27
令和4年	計	0.73	2.00	0.73	-	0.18	0.36
令和3年	計	1.00	2.45	0.81	-	0.27	0.09
令和4年/令和3年比		0.7	0.8	0.8		0.7	4.0

(-0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-11 定点把握対象疾患(基幹)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和4年)

月	メシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	24	2.18	4	0.36	1	0.09
2月	23	2.09	-	-	-	-
3月	19	1.73	1	0.09	-	-
4月	25	2.27	1	0.09	-	-
5月	16	1.45	-	-	2	0.18
6月	22	2.00	1	0.09	2	0.18
7月	30	2.73	-	-	-	-
8月	22	2.00	3	0.27	-	-
9月	28	2.55	-	-	-	-
10月	21	1.91	2	0.18	-	-
11月	28	2.55	1	0.09	-	-
12月	21	1.91	3	0.27	-	-
令和4年 計	279	25.36	16	1.45	5	0.45
令和3年 計	246	22.36	21	1.91	3	0.27
令和4年/令和3年比	1.1	1.1	0.8	0.8	1.7	1.7

(-:0)

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表Ⅲ-1-12 定点把握対象疾患(性感染症)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和4年)

月	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	144	2.48	53	0.91	22	0.38	40	0.69
2月	131	2.22	34	0.58	20	0.34	29	0.49
3月	159	2.69	39	0.66	26	0.44	32	0.54
4月	133	2.29	34	0.59	18	0.31	20	0.34
5月	136	2.34	51	0.88	18	0.31	20	0.34
6月	136	2.31	46	0.78	21	0.36	32	0.54
7月	132	2.24	42	0.71	25	0.42	26	0.44
8月	131	2.22	43	0.73	24	0.41	31	0.53
9月	139	2.40	47	0.81	16	0.28	45	0.78
10月	130	2.24	33	0.57	15	0.26	33	0.57
11月	127	2.15	41	0.69	15	0.25	32	0.54
12月	115	1.95	32	0.54	15	0.25	26	0.44
令和4年 計	1,613	27.57	495	8.46	235	4.02	366	6.26
令和3年 計	1,637	27.89	496	8.45	250	4.26	434	7.39
令和4年/令和3年比	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入

表Ⅲ-1-13 定点把握対象疾患(性感染症)
性年齢階級別報告患者数の推移(令和4年)

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	-	3	-	2	-	-	-	-
15-19歳	20	107	3	17	1	9	15	17
20-24歳	126	350	15	65	9	40	56	32
25-29歳	91	320	8	54	13	40	43	30
30-34歳	78	157	10	65	8	21	27	7
35-39歳	46	82	12	47	7	19	32	8
40-44歳	43	48	13	25	19	3	31	4
45-49歳	43	24	17	32	7	5	24	5
50-54歳	20	20	6	41	11	5	11	1
55-59歳	11	6	7	18	5	4	9	2
60-64歳	10	4	2	11	3	1	4	1
65-69歳	4	-	2	9	1	1	5	-
70歳～	-	-	4	10	1	2	2	-
合計	492	1,121	99	396	85	150	259	107
男女比	0.44	1.00	0.25	1.00	0.57	1.00	2.42	1.00

(-:0)

(2) 病原体情報

a. 全数把握対象疾患の病原体検出状況

(a) 一類・二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法(VNTR 法)等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。令和4年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は47株であった。これらの解析結果では、北京型は30株(63.8%)、非北京型は17株(36.2%)であった。さらに、北京型30株の系統推定では24株(80.0%)が祖先型、6株(20.0%)が新興型であった。過去5年と比較して、北京型の割合は減少し、北京型のうち、祖先型の割合は増加した。

(b) 三類感染症の病原体検出状況

三類感染症の細菌は、腸管出血性大腸菌138株、チフス菌1株の計139株で、コレラ菌、赤痢菌、パラチフスA菌は分離されなかった。このうち国外感染例からの分離は、チフス菌1株であった。国内感染例からの

分離は、腸管出血性大腸菌 138 株であった(表Ⅲ-1-14)。

表Ⅲ-1-14 埼玉県 の 三類感染症細菌検出状況(令和 4 年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	-	-	1	-	1
国内感染	-	-	138	-	-	138
合計	-	-	138	1	-	139

(-:0)

表Ⅲ-1-15 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(令和 4 年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	2	28	50	80
O157:H-	1	2	3	6
O26:H11	17	1	2	20
O103:H2	2	-	1	3
O103:H25	1	-	-	1
O8:H-	-	2	-	2
O84:H2	2	-	-	2
O91:H-	-	-	2	2
O111:H-	-	-	2	2
O112ab:H2	2	-	-	2
O121:H19	-	2	-	2
O156:H-	2	-	-	2
O48v:H45	-	1	-	1
O65:H2	1	-	-	1
O66:H45	1	-	-	1
O71:H2	1	-	-	1
O76:H19	1	-	-	1
O78:H-	1	-	-	1
O88:H25	1	-	-	1
O115:H1/H12	-	1	-	1
O128:H2	-	-	1	1
O145:H-	-	1	-	1
O146:H-	-	1	-	1
O165:H-	-	1	-	1
O174:H21	-	1	-	1
OUT:H21	-	1	-	1
合計	35	42	61	138
割合(%)	25.4	30.4	44.2	

(数値部分の -: 0)

腸管出血性大腸菌は 138 株であった。血清型別では、26 血清型が検出された。最も多く検出された血清型は O157:H7 で 80 株(58.0%)であった。次いで O26:H11 で 20 株(14.5%)、O157:H- が 6 株(4.3%)、O103:H2 が 3 株、その他の血清型は 2 株以下であった。毒素型では、VT1&2 が 61 株(44.2%)、VT2 が 42 株(30.4%)、VT1 が 35 株(25.4%)

であった(表Ⅲ-1-15)。

チフス菌は、10月に20歳代女性から1株分離された。ミャンマーへの海外渡航歴があり、発症状況から国外での感染が疑われた。ファージ型はD2であった。

(c) 四類感染症の病原体検出状況

E型肝炎では、12例12検体が採取され、6例6検体からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、G3が4例、型別未確定が2例であった。ウイルスが検出された6例に海外渡航歴はなかった(表Ⅲ-1-16)。

A型肝炎では、2例3検体が採取されたが、A型肝炎ウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-16)。

サル痘では、1例1検体が採取されたが、サル痘ウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-16)。

デング熱では、2例3検体が採取され、1例2検体からデングウイルスが検出された。遺伝子型は2型であった。陽性の1例には、ベトナムへの渡航歴があった(表Ⅲ-1-16)。

レジオネラ症では、肺炎症状を呈する患者から分離された *Legionella* 属菌は8株で、全て *Legionella pneumophila* 血清群1であった。また、LAMPのみ陽性を示したのは、4件であった。

表Ⅲ-1-16 月別四類ウイルス検出状況(全数把握対象 令和4年)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
E型肝炎	検体数			1	2	1	2	1	4		2		6	19
	E型肝炎			1			2	1	1		1		6	12
A型肝炎	検体数				2	1								3
	A型肝炎													
サル痘	検体数								1					1
	サル痘													
デング熱	検体数								2		1			3
	デング								2					2

(d) 五類感染症全数把握対象疾患の病原体検出状況

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症では、8菌種、63株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)が分離された。最も多く分離されたのは、*Klebsiella aerogenes*で28株(44.4%)、次いで *Enterobacter cloacae* complexが18株(28.6%)、*Klebsiella pneumoniae*が5株、*Citrobacter freundii*が4株、*Serratia marcescens*が3株、*Escherichia coli*、*Enterobacter* sp.がそれぞれ2株ずつ、*Proteus mirabilis*が1株の順で

あった。*Klebsiella* 属は、33 株 (*K. aerogenes* 28 株、*K. pneumoniae* 5 株) で全体の 52.4%を占めていた。薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子 (NDM 型、KPC 型、IMP 型、VIM 型、GES 型、OXA-48 型) 6 種、基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBL) 遺伝子 (TEM 型、SHV 型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group) 5 種、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子 (ACC 型、CIT 型、DHA 型、EBC 型、FOX 型、MOX 型) 6 種の計 17 種類について検査を実施した。

カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (CPE) は、5 株 (7.9%) であった。このうち IMP 型保有株は 4 株で CPE の 80.0%を占めていた。このほか NDM 型が 1 株分離された。CPE の菌種は、*K. pneumoniae*、*E. cloacae* complex、*C. freundii* の 3 菌種であった。ESBL 遺伝子保有株は 9 株 (14.3%)、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子保有株は 8 株 (12.7%) であった。分離された CRE のうち CPE の割合は、平成 30 年以降減少傾向にあり、令和 4 年も同様であった。

五類感染症全数把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表 III-1-17 に示す。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)では、1 例 4 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

急性脳炎(脳症及び疑い例を含む)では、27 例 99 検体が採取され、13 例 22 検体からウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 6 が 4 例 7 件、新型コロナウイルスが 2 例 4 件、アデノウイルス 2 型が 2 例 3 件、パレコウイルス、ライノウイルス、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 7、アデノウイルス 41 型がそれぞれ 2 例 2 件、ムンプスウイルス、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルス、型別未確定のアデノウイルスがそれぞれ 1 件であった。また、サイトメガロウイルス及びヒトヘルペスウイルス 6 が 1 検体、ライノウイルス、RS ウイルス及びヒトメタニューモウイルスが 1 検体、ヒトヘルペスウイルス 6 及びヒトヘルペスウイルス 7 が 1 検体から同時検出された。複数のウイルスが検出された症例のうち、4 症例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

劇症型溶血性レンサ球菌では、19 株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は 5 株、*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE)12 株、B 群溶血性レンサ球菌 (GBS) である *Streptococcus agalactiae* は 2 株であった。*S. pyogenes* は、2 月、10 月、11 月、12 月に分離され、emm 型は、emm81.0 が 3 株、emm89.0 が 2 株分離された。

T 型別では、TB3264 型が 2 株、T 型別不能が 3 株であった。SDSE の emm 型は、stG245.0、stG485.0、stG6792.3 がそれぞれ 2 株、stG6.1、stG10.0、stG652.1、stG652.5、stG840.0、stC36.0 がそれぞれ 1 株であった。*Streptococcus agalactiae* (GBS) の莢膜型は、II 型、V 型がそれぞれ 1 株であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症由来の侵襲性髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) は、11 月に 1 株分離された。血清群/シーケンスタイプは、Y 群/ST17048 であった。

播種性クリプトコックス症では、*Cryptococcus neoformans* は 11 月、12 月に 1 株ずつ、計 2 株分離された。

バンコマイシン耐性腸球菌は 10 月に 1 株が分離された。分離株は *Enterococcus faecalis* で、バンコマイシン耐性遺伝子は vanB であった。

風しんでは、2 例 4 検体が採取されたが、令和 2 年、令和 3 年と同様、ウイルスは検出されなかった。

麻しんでは、4 例 11 検体が採取されたが、令和 2 年、令和 3 年と同様、ウイルスは検出されなかった。

表 III-1-17 月別五類ウイルス検出状況(全数把握対象 令和 4 年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス
		検体合計数	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
急性弛緩性麻痺	検体数		5	11	8	5	7	14	17	5	14	21	11	118	
	エンテロ D68										4			4	
急性脳炎 (四類以外)	検体数		5	8	8	5	4	11	16	5	10	17	10	99	
	パレコ											1	1	2	
	ライノ							1	1					2	
	サイトメガロ				2									2	
	ヒトヘルペス 6				3	2					2			7	
	ヒトヘルペス 7				1						1			2	
	ムンプス											1		1	
	RS								1					1	
	ヒトメタニューモ								1					1	
	アデノ 2						2	1						3	
	アデノ 41					1			1					2	
	アデノ nt												1	1	
	新型コロナ			2								2		4	
風しん	検体数						3						1	4	
	風しん														
麻しん	検体数			3				3	1			4		11	
	麻しん														

(e) 五類感染症定点把握対象疾患の病原体検出状況

五類感染症定点把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表 III-1-18 及び III-1-19 に示す。

インフルエンザでは、合計 20 検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出は、AH3 亜型が 15 件、AH1pdm09 亜型が 1 件、インフルエンザウイルス B 型が 1 件であった。

表Ⅲ-1-18 月別インフルエンザウイルス検出状況
(内科及び小児科定点把握対象 令和4年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ	検体数	1								1	1		2	15	20
	インフルエンザ AH1pdm09									1					1
	インフルエンザ AH3											1	14	15	
	インフルエンザ B										1				1

表Ⅲ-1-19 月別五類ウイルス検出状況
(小児科定点把握対象 令和4年)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計 219	その他のウイルス
		1月 15	2月 10	3月 13	4月 17	5月 26	6月 35	7月 20	8月 10	9月 18	10月 26	11月 11	12月 18		
RSウイルス 感染症	検体数					1								1	
	RS					1								1	
咽頭結膜熱	検体数		1				1							2	
	アデノ2		1				1							2	
感染性胃腸炎	検体数	9	1	1	5	9	7	4	3	2	4	4	3	52	
	ノロ	5	1	1		1	1	1				1	3	14	アデノ2(1), パレコ(1), ライノ(3)
	サポ				1	2		2						5	
	アストロ	1												1	
アデノ40/41	1			1	3	1		3	1	1	1		12		
水痘	検体数		1		1									2	ヒトヘルペスウイルス6(1)
	水痘带状疱疹しん		1											1	
手足口病	検体数		1		1		9	12	4	3	3	1	2	36	エンテロ nt(1), パレコ(2), ライノ(1), アデノ2(1), アデノ nt(1)
	コクサッキー A6						6	10	2	3	2	1	1	25	
	コクサッキー A16				1								1	3	
	エンテロ A71										1			1	
突発性発しん	検体数							1						1	
	ヒトヘルペス 6							1						1	
ヘルパンギーナ	検体数	1				2	4		1	2	2	1	1	14	パレコ(2), アデノ nt(1), ポカ(1)
	コクサッキー A4										1			1	
	コクサッキー A6						1		1	1	1			4	
流行性耳下腺炎	検体数										1			1	
流行性角結膜炎	検体数	1	1		3	3	7		1	1	1			18	
	アデノ37					3	6			1	1			11	
	アデノ53						1		1					2	
	アデノ64	1			1									2	
	アデノ nt				1									1	
無菌性髄膜炎	検体数	4	5	12	7	11	7	3	1	10	15	5	12	92	
	コクサッキー B1				4									4	
	アデノ41									1				1	
	単純ヘルペス 1											1		1	
	単純ヘルペス 2										1			1	
	水痘带状疱疹しん										1			1	
	EB										1	1		2	
	サイトメガロ				1									1	
	ヒトヘルペス 6			2		1				1				4	
	ヒトヘルペス 7						1				3	1		5	
	ヒトパルボ B19		1											1	
ムンプス		1										1	2		

nt:not typed

RS ウイルス感染症では、1 検体が採取され、1 件の RS ウイルスが検出された。検出された RS ウイルスは RSV-A であった。

咽頭結膜熱では、2 検体が採取され、2 件のアデノウイルスが検出された。検出されたアデノウイルスはいずれもアデノウイルス 2 型であった。

感染性胃腸炎では、52 検体が採取された。検出されたウイルスは、ノロウイルスが 14 件、アデノウイルス 40/41 型が 12 件、サポウイルスが 5 件、アストロウイルスが 1 件であった。検出されたノロウイルスはすべて G2 であった。1 検体から、ノロウイルスとアデノウイルス 40/41 型が重複して検出された。胃腸炎起因ウイルス以外ではライノウイルスが 3 件、アデノウイルス 2 型、パレコウイルスがそれぞれ 1 件検出された。この他に細菌では、*Campylobacter jejuni* が 5 月に 1 株分離された。

水痘では、2 検体が採取された。検出されたウイルスは、水痘帯状疱疹ウイルスが 1 件であった。水痘起因ウイルス以外では、ヒトヘルペスウイルス 6 が 1 件であった。

手足口病では、36 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A6 型が 25 件、コクサッキーウイルス A16 型が 3 件、型別未確定のエンテロウイルスが 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、パレコウイルスが 2 件、ライノウイルス、アデノウイルス 2 型、型別未確定のアデノウイルスがそれぞれ 1 件であった。令和 4 年は令和元年以来 3 年ぶりに警報レベルを超える流行となった。過去 4 年の流行では、平成 30 年は CV-A16 と EV-A71、令和元年は CV-A6 と CV-A16 が多く検出されていた。令和 4 年に検出されたウイルスは CV-A6 が多く、89.3%を占めた。

突発性発しんでは、1 検体が採取され、1 件のヒトヘルペスウイルス 6 が検出された。

ヘルパンギーナでは、14 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A6 型が 4 件、コクサッキーウイルス A4 型が 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、パレコウイルスが 2 件、型別未確定のアデノウイルス、ボカウイルスがそれぞれ 1 件であった。

流行性耳下腺炎では、1 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

流行性角結膜炎では、18 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス 37 型が 11 件、アデノウイルス 53 型、アデノウイルス 64 型がそれぞれ 2 件、型別未確定が 1 件であった。

無菌性髄膜炎では、43 例 92 検体が採取され、15 例 20 検体から 23 件

のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 7 が 5 例 5 件、ヒトヘルペスウイルス 6 が 4 例 4 件、エプスタイン・バー ル・ウイルス（EBV）、ムンプスウイルスがそれぞれ 2 例 2 件、コクサ ッキーウイルス B1 が 1 例 4 件、アデノウイルス 41 型、単純ヘルペスウ イルス 1 型、単純ヘルペスウイルス 2 型、水痘帯状疱疹ウイルス、サ イトメガロウイルス、ヒトパルボウイルス B19 がそれぞれ 1 件であった。 検出されたムンプスウイルスのうち、1 件はワクチン株であった。また、 コクサッキーウイルス B1 型及びサイトメガロウイルスが 1 検体、EBV 及びヒトヘルペスウイルス 7 が 1 検体、ムンプスウイルス及びヒトパル ボウイルス B19 が 1 検体から重複して検出された。また、複数の検体が 採取された症例のうち 2 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

(3) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症は令和 4 年 9 月 26 日から発生届出の対象 が見直され、感染動向は日ごとの患者の総数及び日ごとの患者の年代別 の総数（以下、日次報告数という）として把握されることとなった。令 和 4 年は、1 月 1 日から 9 月 25 日までの従来が発生届に基づく報告数 1,064,537 人、9 月 26 日以降の日次報告数 450,165 人の計 1,514,702 人 の報告があり、前年に届出のあった 101,396 人と比較し大幅に増加し た。

全数届出見直し前の症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布していた。 年齢階級別では、40 歳代が最も多く、60 歳未満が全体の 87.5%を占め た。性別では、男性 530,066 人、女性 534,392 人で、およそ同等であっ た。症状の有無別では、有りが 999,078 人、無しが 17,688 人で、症状 有りが全体の 93.9%を占めた（表Ⅲ-1-20）。

全数届出見直し後は、10 歳未満から 90 歳代以上の全ての年齢階級で 報告があり、全数届出見直し前と同様に、40 歳代が最も多く、60 歳未 満が全体の 82.2%を占めた（表Ⅲ-1-21）。

表Ⅲ-1-20 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別届出数
(令和5年1月1日～9月25日)

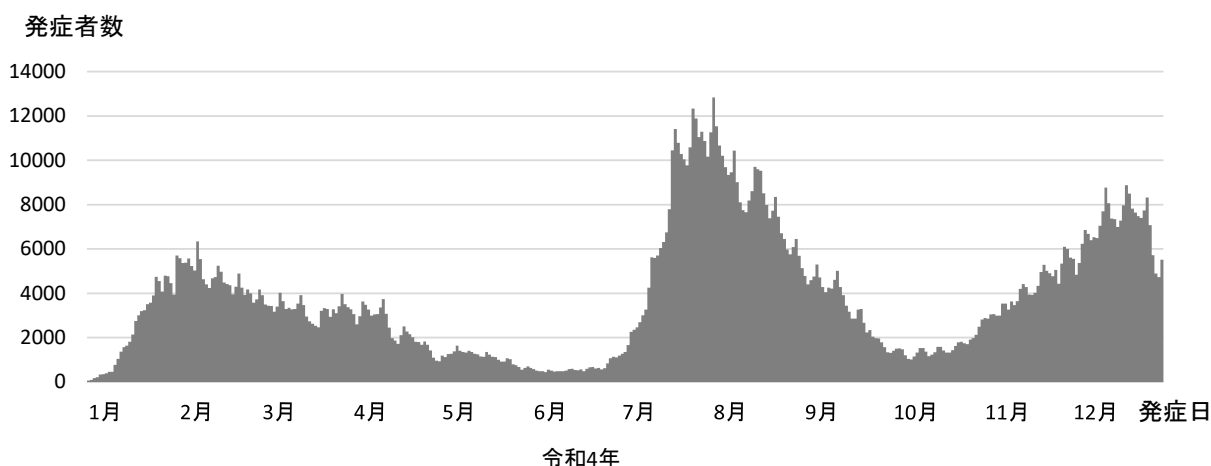
年齢階級	症例数	性別			症状の有無		
		男性	女性	不明	有り	無し	不明
10歳未満	160,225	83,717	76,495	13	150,445	2,639	7,141
10歳代	154,503	83,633	70,863	7	146,810	1,704	5,989
20歳代	163,635	80,986	82,626	23	154,084	2,060	7,491
30歳代	166,102	80,791	85,299	12	155,706	2,307	8,089
40歳代	171,905	82,474	89,418	13	161,405	2,618	7,882
50歳代	114,630	56,512	58,113	5	108,098	1,857	4,675
60歳代	57,352	28,688	28,659	5	53,746	1,221	2,385
70歳代	40,636	19,996	20,640	-	37,463	1,283	1,890
80歳代	25,827	10,763	15,063	1	22,920	1,364	1,543
90歳代	9,213	2,432	6,781	-	7,961	606	646
100歳代	435	40	395	-	381	27	27
不明	74	34	40	-	59	2	13
合計	1,064,537	530,066	534,392	79	999,078	17,688	47,771
割合	100.0%	49.8%	50.2%	0.01%	93.9%	1.7%	4.5%

表Ⅲ-1-21 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別届出数
(令和5年9月26日～12月31日)

年齢階級	日次報告数*	発生届出数**	内訳		
			男性	女性	不明
10歳未満	50,381	401	222	179	0
10歳代	67,331	232	112	120	0
20歳代	60,730	1,585	266	1,319	0
30歳代	64,745	2,773	494	2,279	0
40歳代	72,923	1,979	1,050	929	0
50歳代	53,848	3,054	1,775	1,279	0
60～64歳	16,812	2,018	1,173	845	0
65～69歳	13,454	13,454	6,613	6,840	1
70歳代	25,044	25,044	12,274	12,770	0
80歳代	17,938	17,938	7,575	10,363	0
90歳以上	6,918	6,918	1,684	5,234	0
不明	41	0	0	0	0
合計	450,165	75,396	33,238	42,157	1

* 日次報告数には発生届出数を含む

** 4類型(①65歳以上の者②入院を要するもの③重症化リスクがあり、新型コロナウイルス感染症治療薬の投与又は新たに酸素投与が必要と医師が判断する者④妊婦)に該当したもの



※ 全数届出の見直しに伴い、2022年9月26以降に関しては、発生届の提出のあった者及び埼玉県の陽性者登録窓口に登録のあった者を対象として発症者数を集計。

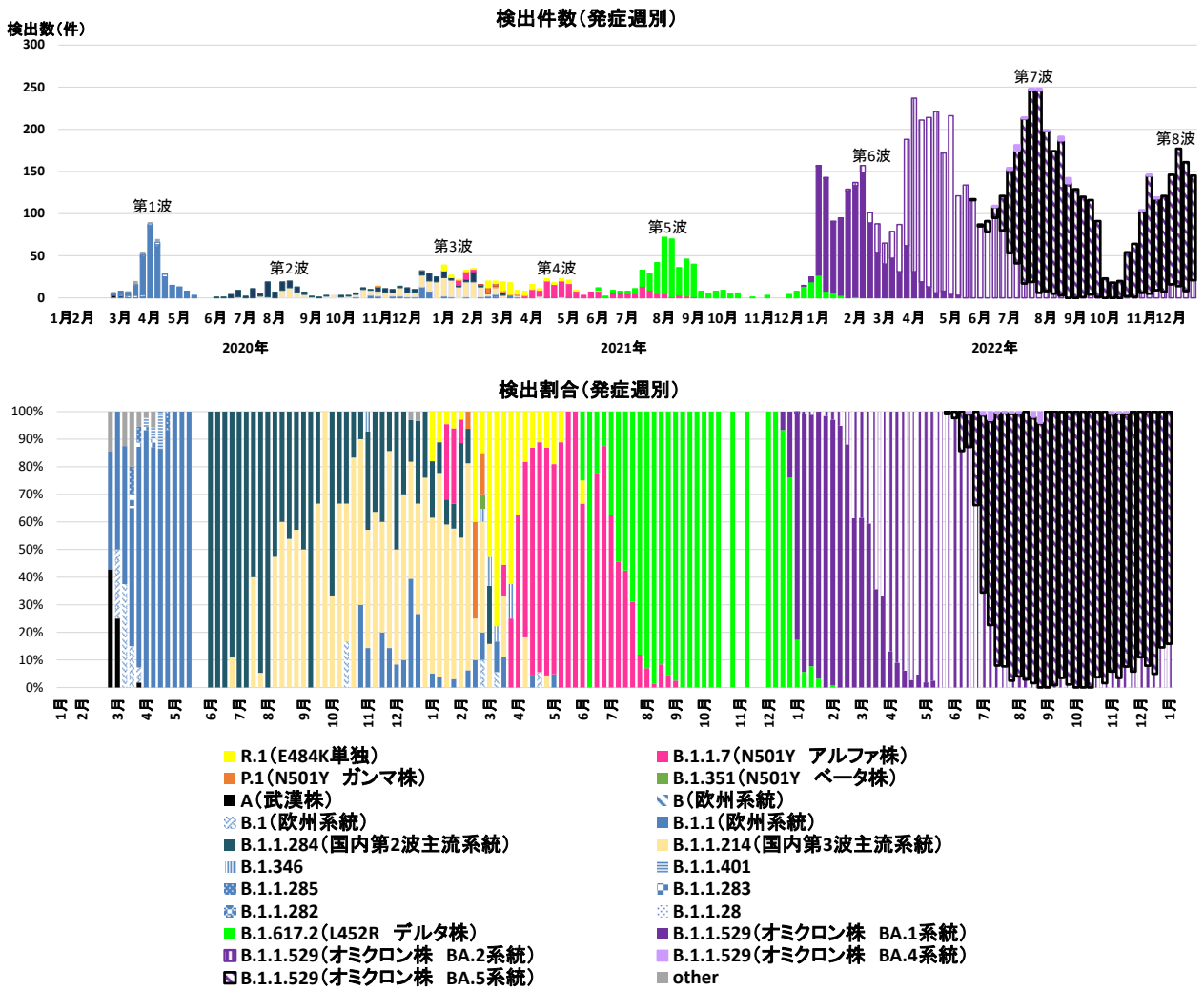
図Ⅲ-1-2 新型コロナウイルス感染症 発症者数(令和4年)

令和2年から令和3年までに計5つの波が観察されている。令和4年の患者の発生状況は、1月から6月にかけて第6波が観察された。第6波に発症者数が最大となったのは2月7日(6,347人)であった。その後、発症者数は減少したが、7月に患者数が急激に増加し、9月にかけて第7波が観察された。第7波における患者数の最大値は8月1日の12,841人で、過去最大であった。その後、患者数は再度減少したものの、11月から再び増加し、第8波が観察された(図Ⅲ-1-2)。第8波に患者数が最大となったのは12月19日(8,884人)であった。

新型コロナウイルス感染症では、21,836例 21,841検体が採取され、3,906例 3,906件の新型コロナウイルスが検出された(一部陰性確認を含む)(表Ⅲ-1-22)。次世代シーケンサー(NGS)によるゲノム解析によると、令和3年夏の第5波ではB.1.617.2(デルタ株)が主流だったが、令和4年1月からの第6波では、B.1.1.529(オミクロン株)に入れ替わった。その後、主流となる変異株は、オミクロン株の中で、その亜系統であるBA.1からBA.2へ、さらに第7波ではBA.5へ入れ替わり、令和4年12月時点でBA.5の流行が続いている(図Ⅲ-1-3)。

表Ⅲ-1-22 月別新型コロナウイルス検出状況(令和4年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
新型コロナ ウイルス 感染症	検体数	8,341	3,419	2,481	1,829	1,633	489	1,927	889	270	205	139	219	21,841
	新型コロナ	1,127	1,003	601	227	203	25	403	210	29	36	21	21	3,906



図Ⅲ-1-3 新型コロナウイルス感染症 ゲノム解析結果(令和4年)